

印象派 モネからアメリカへ ウスター美術館所蔵

東京都美術館 24. 01. 27～04. 07 巡回 郡山・八王子・大阪

「ウスター美術館」は、1898年に開館したアメリカ・マサチューセッツ州の第2の都市「ウスター」にあり、古代エジプト、古代ギリシャ・ローマ美術からヨーロッパやアメリカの絵画・彫刻、世界各地の現代美術までの、およそ「38,000点」のコレクションを誇り、多様な来館者にアートを提供している。

本展は、150年前にフランスで生まれた「印象派」が大西洋を超えアメリカの地でも花開き、今回、大半が初来日となる同館の「モネ」「ルノアール」などフランス印象派コレクションを中心に、ドイツや北欧の作家「サージェント」にアメリカを代表する「ハッサム」らの作品が展示されている。

<本展の見どころ>

1. 「モネ」「ルノアール」「カサット」らの名だたる画家たちの作品が集結し他に「クールベ」「コロー」「ピサロ」「カサット」「サージェント」「ホーマー」「セザンヌ」「シニャック」らの40人以上の画家の作品が展示される。
2. 海を越え花開いた“アメリカ印象派”の作品の知られざる魅力の堪能。
3. 日本初公開！ ウスター美術館の珠玖印象派コレクションが見どころ。

ポール・セザンヌ 《カルタ遊びする人びと》1890～92年 油彩/カンヴァス



画伯は、酒場の一角でカルタ遊びをする人びとをテーマとし、5点の連作を描いているが、本作は小型であるが最も密度が高い作品とされている。

4人の田舎の男たちが労働の後、酒場でカルタ遊びをする素朴な雰囲気の様子は、フランス印象派絵画の最も素朴な側面をも受け継いでいることを物語っている。

チャイルド・ハッサム 《花摘み、フランス式庭園にて》 油彩/カンヴァス



「ハッサム」はアメリカ・ボストン生まれの印象派画家で当初はフリー挿絵画家として活躍をしたが、その後、欧州に渡り絵画を学び、画家「ターナー」の影響を強く受けた。

本作は、渡仏中にパリ郊外の友人宅で「フランス式庭園」(1888年制作)の様子を描いた作品で、知られざる「アメリカ印象派」の魅力に触れる貴重な機会として注目される。